

悠仁親王殿下
18歳の記者会見に賛嘆の声記者会見に臨まれた悠仁親王殿下
(宮内庁HPより)

昨年9月に民法の規定を準用して18歳の成年をお迎えになり、この春から筑波大学の生命環境学群生物学科に進学される悠仁親王殿下が3月3日、宮内記者会との初めての記者会見に臨まれました。殿下は約30分間にわたり、居並ぶ記者たちの質問に対し、視線を向けながら、はつきりとした口調で丁寧にお答えになりました。

「ご存在について、上皇陛下がお考えになってこられ、天皇陛下が先日の記者会見でおっしゃっていただきましたように、常に国民を思い、国民に寄り添う姿なのではないかと思えます。また、皇室の在り方につきましても、天皇陛下のお考えのもと、人々の暮らしや社会の状況に目を向け続けると思います」と述べられました。

これは、殿下がご自分の肉声で国民に向けて発言された初めての言葉であり、将来の天皇としての覚悟のようなものが感じられました。おそらく、皇室の行く末を案じている多くの人々が同じ思いを持たれたのではないでしようか。

なお、皇居での成年式は19歳をお迎えになる今年9月6日に執り行なわれる予定です。(宮田修一)

「旧姓の通称使用」の法制化を求める国民集会
国会議員らも75人

「旧姓の通称使用」の法制化を求める国民集会が3月12日、衆議院第1議院会館で開かれ、代表出席を含む国会議員75人と市民350人が参加しました。ジャーナリストの櫻井よしこ氏や評論家の池内ひろ美氏、主婦の三萩祥さん、日大名誉教授の百地章氏が、それぞれ通称使用の法制化に向けた「提言」を行い、自

「旧姓の通称使用」の
法制化を求める要望書



自民WTで暴露された経団連の的外れな主張

国会では立憲・共産などが夫婦別姓法案を国会に提出する動きを見せており、4月に衆院法務委員会が開かれる見込みです。そうした中、自民党は氏のあり方に関するワーキングチーム(WT)が意見集約を続けているほか、併行して通称使用法制化の「法案一本化」に向けた動きも本格化しています。これについては、「通称使用拡大を『政令』で定める」旨の法律案なども検討されています。

国会外では、経団連の十倉雅和会長が10日の

「自民内から
「石破退陣」要求

夏の参議院選挙をにらみ、西田昌司参議院議員が12日、「このままでは戦えない」として石破首相の退陣を要求しました。「少数野党」を言いわけに、思いつきの政策で迷走する石破首相の限界が露わになっています。自民1期生に対する首相の商品券配布問題も明らかにになり、予算成立後も居座られては、「自民惨敗」は必至です。

記者会見で、選択的夫婦別姓に関して「こういう問題は万機公論に決すべし」などと発言。関係者からは、「それを言うなら『通称使用の法制化や拡大』こそが公論ではないのか。世論調査を無視したズレた発言だ」との嘲笑とも言える声が出ています。

最近の自民党WTでは、経団連が事例として挙げる「旧姓の通称使用の弊害」のほとんどが、通称が拡大される前の古いものであることも指摘されています。